

## 自己育成型評価システム「Susumo」

### ～教・職・学 三位一体となった教育支援～

【B班3グループ】 ビーサン改め 大学一家

#### 【課題認識】

近年のような情報化社会、生涯学習社会の中で大学が果たす役割は多様になり、それに伴って実際の教育現場でも大綱化が進められているが、最も重要なのは一人ひとりの学生に対しての教育の在り方であろう。そこで、今回は課題認識としていかにして教育の質の向上を図るのかという観点をもとに議論を展開した。

#### 【討議内容】

まず、第一段階として各々の大学が抱える問題や改善すべき点を出し合い、それらをお互いに理解・共有したうえで現代社会における理想の大学像について話し合った。

グループ内で共通していた各大学が抱える課題

◎大学一家としての「教・職・学」の縦横の連携・つながりの希薄さ

◎学生の主体性と学習に対する意識の温度差

つまり教育の質を高めるためには、まず「つながり」を強固にし「知」だけではなく「社会人基礎力」を養うことも必須であり、どのように教育・サービスを提供するかが重要になってくる。そして、そこから見えてくる理想の教育の在り方、大学像は

⇒**社会の要請に応える人材育成の場**

と考えた。そこで、考えるその理想を満たすための4つのポイント

①情報を一元化するためのツール

学生カルテや保護者に対しての情報公開を通して、大学と学生（保護者）の双方向間のコミュニケーションを活発にすること。

②学習の誘意性と可能性を引き上げる授業改革

初年次教育の強化や学生が主体となったコミュニケーションの多い授業へ。ゼミの活性化。

③外的な連携

職員による講義受講、授業評価の機会創出や、積極的な他大学との連携の重要性。

④学生が安心できる環境づくり

ピアサポートやオリター制度を取り入れた相互支援制度の充実。

## 【提案内容】

そこで提案されたのが、PDCA サイクルを活用した

自己育成型評価システム「**Susumo**」(*Student from Seeds to Ultra Mountain*)

具体的なサイクルの流れ（半期ごと）

- ①Plan（計画）：学生は学部教育を見据えた細分化された自分の目標を設定。このとき、このシステムを定着させるための工夫として、履修登録とセットにして必ず目標を設定させる。また、初年次教育やオリター制度などを通して縦の連携を円滑にし、新入生を中心に活力を見出すための指導を行う。
- ②Do（実践）：実際に目標達成に向けての取り組み。このとき、リアルタイムでサポートできるよう **twitter** や **facebook** を活用した質問箱や目安箱を設ける。
- ③Check（評価）：半期ごとの成果を具体的に数値化・グラフ化し、同学年の他の学生との比較、他大学の同じ環境の学生との比較を通して、学生自身による自己分析・評価。また、保護者によるチェックも実施。
- ④Action（改善）：面談や大学各部署からのコメント記入による学生一人ひとりに対して連携した全体的なサポートの提供。目標達成率によっては奨励金を与える。

## 【期待できる効果】

- ・学生の立場では、4年間を振り返ることで、大学で何を学んだか、どのくらい成長できたかを可視化することができるため、就職活動にも役立つ自己分析を含めた情報を得ることができる。
- ・教職員は、学生の状態・状況をリアルタイムで見ることができ、適切な時期に一人ひとりに対応できる。
- ・下級生に対して具体的な指標や成功事例として活用でき、さらなる教育の質の向上に役立てることができる。

学生が自発的に、また積極的な姿勢を見出すための充実した自己評価を通して、「教・職・学」が同じ方向性を持つことで多様化する「**社会の要請に応える人材育成**」につながる ＝ 教育の質も必然的に向上すると考える。

## 【さらなる課題認識】

- ・大学間の連携の具体化
- ・既存学内システムとの連携など運用方法の具体化
- ・学部教育とどう連携させるか
- ・評価手法の明確化

発表後の意見交換で上記の指摘があり、課題として認識した。

今後の具体化に向け明確にしていきたい。